

受験テキスト Vol. 16 正誤表

頁	正	誤																																																																						
P.36 上から 22 行目	世界測地系に基づいた 現在の 測地成果を測地成果 2011 という。	世界測地系に基づいた測地成果を測地成果 2000 という。																																																																						
P.48 上から 6～7 行目	国土地理院 HP「製品仕様書・品質評価・メタデータ」 (http://psgs2.gsi.go.jp/koukyou/public/seihinsiyou/seihinsiyou_index.html) は以下のように説明されている。	国土地理院 HP「製品仕様書・品質評価・メタデータ」 (http://www.gsi.go.jp/sokuchikijun/datum-main.html) で は以下のように説明されている。																																																																						
P114 下から 5 行目	<p style="text-align: center;">表-2</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>倍角</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>倍角差</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>較差</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>観測差</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	1	2	3	4	5	6	倍角	○	○	○		○		倍角差	○	○	○				較差	○	○		○		○	観測差	○	○					<p style="text-align: center;">表-2</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>倍角</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>倍角差</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>較差</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>観測差</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	1	2	3	4	5	6	倍角	○	○	○		○		倍角差	○	○	○				較差	○	○		○			観測差	○	○				
区分	1	2	3	4	5	6																																																																		
倍角	○	○	○		○																																																																			
倍角差	○	○	○																																																																					
較差	○	○		○		○																																																																		
観測差	○	○																																																																						
区分	1	2	3	4	5	6																																																																		
倍角	○	○	○		○																																																																			
倍角差	○	○	○																																																																					
較差	○	○		○																																																																				
観測差	○	○																																																																						
P115 例題 2-32	<p>例題 2-32 の後に下記の文を加える。</p> <p>(解説) 4. 気泡管は調整ネジによって調整されているので、運搬中の振動等により変化する。また、気温による気泡管の変化もあるので、各側点で観測前に点検しなければならない。したがって、この説明は誤りである。</p> <p>(正解 4)</p>																																																																							
P.116 上から 9 行目	<p>i 標高の概算 (点検路線に沿って順次標高を計算, 到達点で成果表の標高を引いて標高の閉合差とする)</p> <p>ii 距離の計算 (概算標高に既知点の平均ジオイド高を加えて楕円体高に変換して, 斜距離D を基準面 (GRS80楕円体表面) 上の距離S (球面距離) に変換)</p> <p>iii 偏心補正角と本点同士の距離の計算 (補正角と球面距離を計算)</p> <p>iv 偏心補正</p> <p>v 中心の観測角の計算 (本点で観測したとしたら得られるであろう観測角)</p> <p>vi 距離の計算 (球面距離S に既知点の縮尺係数の平均値を掛けて座標平面上の距離s に変換)</p> <p>vii 確定方向角の計算 (各点検路線の出発既知点において)</p> <p>viii 各方向観測角を方向角に変換</p> <p>ix 座標の概算 (点検路線に沿って順次座標を計算, 到達点で成果表の座標を引いて座標の閉合差とする)</p> <p>点検路線毎の標高と座標 (x, y) の閉合差を精度管理表に記入する。</p>	<p>i 標高の概算 (点検路線に沿って順次標高を計算, 到達点で成果表の標高を引いて標高の閉合差とする)</p> <p>ii 以降追加する。</p>																																																																						
P131 下から 8 行目	$T_2 = T_1 + \alpha_2 - 180^\circ$ <p>ただし、$T_1 + \alpha_2 > 180^\circ$ の場合</p> <p>または、</p> $T_2 = T_1 + \alpha_2 + 180^\circ$ <p>ただし、$T_1 + \alpha_2 < 180^\circ$ の場合</p>	$T_2 = T_1 + \alpha_1 - 180^\circ$ <p>ただし、$T_1 + \alpha_1 > 180^\circ$ の場合</p> <p>または、</p> $T_2 = T_1 + \alpha_1 + 180^\circ$ <p>ただし、$T_1 + \alpha_1 < 180^\circ$ の場合</p>																																																																						
P.143 下から 3～4 行目	平均計算における方向角の観測方程式等は本文2.5.9 の⑥の解説で理解されたい。本文2.5.9 の⑥の式 (2.86) により、...	平均計算における方向角の観測方程式等は本文2.5.7 の⑥の解説で理解されたい。本文2.5.7 の⑥の式 (2.80) により、...																																																																						
P.165 上から 11 行目	測位における、衛星の配置による測位精度の低下率を数字で表したものの。	単独 測位における、衛星の配置による測位精度の低下率を数字で表したものの。																																																																						
P213 下から 20 行目	復路値 2.2874m -1.5984m -1.3819m -0.6929m 往復差 <u>-3.5mm</u> -2.1mm 1.4mm -4.2mm	復路値 2.2874m -1.5984m -1.3819m -0.6829m 往復差 <u>-3.5mm</u> -2.1mm 1.4mm <u>5.8mm</u>																																																																						
P284 上から 3 行目	(5.7) 及び(5.7') と全く同じようにして、	(5.4) 及び(5.5) と全く同じようにして、																																																																						
P311 上から 8 行目	DMC $\frac{B}{H} = 0.4 \times \frac{9.2}{12} = 0.31$	DMC $\frac{B}{H} = 0.4 \times \frac{9.6}{12} = 0.32$																																																																						
P.396 上から 8 行目	N=10,000,000m, E=500,000m とし、値は原点から北と東の方向に増加する。	N=10,000,000m, E=5000,000m とし、値は原点から北と東の方向に増加する。																																																																						
P.458 下から 12 行目	式 (7.8) と式 (7.3) より、	式 (7.10) と式 (7.5) より、																																																																						
P.756 下から 6 行目	が式(1.40)の逆行列になる。	が式(1.39)の逆行列になる。																																																																						

受験テキスト Vol. 16 正誤表

頁	正	誤
P.36 上から 22 行目	世界測地系に基づいた 現在の 測地成果を測地成果 2011 という。	世界測地系に基づいた測地成果を測地成果 2000 という。
P.48 上から 6～7 行目	国土地理院 HP「製品仕様書・品質評価・メタデータ」 (http://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/public/seihinsiyou/seihinsiyou_index.html) は以下のように説明されている。	国土地理院 HP「製品仕様書・品質評価・メタデータ」 (http://www.gsi.go.jp/sokuchikijun/datum-main.html) で は以下のように説明されている。
P.116 上から 9 行目	<p>i 標高の概算 (点検路線に沿って順次標高を計算, 到達点で成果表の標高を引いて標高の閉合差とする)</p> <p>ii 距離の計算 (概算標高に既知点の平均ジオイド高を加えて楕円体高に変換して, 斜距離D を基準面 (GRS80楕円体表面) 上の距離S (球面距離) に変換)</p> <p>iii 偏心補正角と本点同士の距離の計算 (補正角 (球面角) と球面距離を計算)</p> <p>iv 偏心補正</p> <p>v 中心の観測角の計算 (本点で観測したとしたら得られるであろう観測角)</p> <p>vi 距離の計算 (球面距離S に既知点の縮尺係数の平均値を掛けて座標平面上の距離s に変換)</p> <p>vii 確定方向角の計算 (各点検路線の出発既知点において)</p> <p>viii 各方向観測角を方向角に変換</p> <p>ix 座標の概算 (点検路線に沿って順次座標を計算, 到達点で成果表の座標を引いて座標の閉合差とする)</p> <p>点検路線毎の標高と座標 (x, y) の閉合差を精度管理表に記入する。</p>	<p>i 標高の概算 (点検路線に沿って順次標高を計算, 到達点で成果表の標高を引いて標高の閉合差とする)</p> <p>ii 以降追加する。</p>
P.143 下から 3～4 行目	平均計算における方向角の観測方程式等は本文2.5.9 の⑥の解説で理解されたい。本文2.5.9 の⑥の式 (2.86) により, . . .	平均計算における方向角の観測方程式等は本文2.5.7 の⑥の解説で理解されたい。本文2.5.7 の⑥の式 (2.80) により, . . .
P.165 上から 11 行目	測位における, 衛星の配置による測位精度の低下率を数字で表したものの。	単独 測位における, 衛星の配置による測位精度の低下率を数字で表したものの。
P.396 上から 8 行目	N=10,000,000m, E=500,000mとし, 値は原点から北と東の方向に増加する。	N=10,000,000m, E=5000,000mとし, 値は原点から北と東の方向に増加する。
P.458 下から 12 行目	式 (7.8) と式 (7.3) より,	式 (7.10) と式 (7.5) より,
P.756 下から 6 行目	が式(1.40)の逆行列になる。	が式(1.39)の逆行列になる。

受験テキスト Vol. 16 正誤表

頁	正	誤
P.36 上から 22 行目	世界測地系に基づいた 現在の 測地成果を測地成果 2011 という。	世界測地系に基づいた測地成果を測地成果 2000 という。
P.116 上から 9 行目	<p>i 標高の概算（点検路線に沿って順次標高を計算，到達点で成果表の標高を引いて標高の閉合差とする）</p> <p>ii 距離の計算（概算標高に既知点の平均ジオイド高を加えて楕円体高に変換して，斜距離D を基準面（GRS80楕円体表面）上の距離S（球面距離）に変換）</p> <p>iii 偏心補正角と本点同士の距離の計算（補正角（球面角）と球面距離を計算）</p> <p>iv 偏心補正</p> <p>v 中心の観測角の計算（本点で観測したとしたら得られるであろう観測角）</p> <p>vi 距離の計算（球面距離S に既知点の縮尺係数の平均値を掛けて座標平面上の距離s に変換）</p> <p>vii 確定方向角の計算（各点検路線の出発既知点において）</p> <p>viii 各方向観測角を方向角に変換</p> <p>ix 座標の概算（点検路線に沿って順次座標を計算，到達点で成果表の座標を引いて座標の閉合差とする）</p> <p>点検路線毎の標高と座標（x, y）の閉合差を精度管理表に記入する。</p>	<p>i 標高の概算（点検路線に沿って順次標高を計算，到達点で成果表の標高を引いて標高の閉合差とする）</p> <p>ii 以降追加する。</p>